

令和5年度

## フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションプロジェクト戦略検討委員会

令和6年2月9日(金)15:00~17:00

Food and Healthcare Open Innovation Project



## フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションプロジェクト第1次戦略計画の概要 R2~6年度



# ○プロジェクトにおける主な取組

## R5の主な取組

### ○フードテック・ヘルステックビジネス創出支援

- ✓ 「サステナブルな仕組・製品づくり」・「災害時にも活用できる健康食の開発」をテーマに、県内の食品関連企業と、県内外のソリューション企業の協業による静岡発「未来の食」の開発支援(協業支援4件)

P5

### ○プロジェクト成果品の販路拡大支援

- ✓ (株)杏林堂薬局と連携し、プロジェクトの一環として事業化された製品の販路拡大による販売促進支援や、プロジェクトの周知啓発の実施

P5

### ○「ムードフード」を意識した機能性おやつの開発支援

- ✓ 食生活が乱れがちな現代の食生活の中で、3食のみで栄養バランスを整えることは困難なため、食事の合間に必要な栄養素を、「おいしく」「楽しく」おやつ感覚で食べることのできる食品の開発支援

P5

### ○ヘルスケアビジネス事業計画作成支援

- ✓ 事業化が難しいとされるヘルスケアビジネスの事業計画の作成を専門家が支援することで、事業化の可能性を高めるとともに、ヘルスケア分野への参入促進や、先進的事例の創出を支援(ヘルスケア関連9社)

P7

## R6の重点取組

### ○FHCaOI7° 外第2次戦略計画の策定

- ✓ 第1次戦略計画の期間が令和6年度までのため、企業が抱く課題やニーズ、社会情勢等を踏まえ、フードテック・ヘルスケア戦略の明確化などの今後の具体的な方向性等を示した第2次戦略計画の策定

資料2

### ○フードテック・ヘルステックビジネス創出支援

- ✓ R5協業事例のアフターフォローを行うとともに、フードテックを活用した高付加価値型食品等の開発に向けて、県内外の食品関連企業の新たな協業を支援

P14

### ○未利用食材発生状況全県調査

- ✓ 未利用素材等を活用した食のアップサイクルによるサステナブルな仕組づくりを推進するため、県内における未利用素材の発生状況調査(入口戦略)を実施

P15

### ○ヘルスケア分野での異業種交流の推進

- ✓ 新たなヘルスケアビジネスの創出には、異業種での共創によるオープンイノベーションが不可欠であるため、異業種による協業やアイデア出しを支援する、異業種交流会やアイデアソンを開催

P16

2

## 今年度の取組実績

分野	製品開発プロセス				人材育成 開発環境の充実 戦略5
	研究開発 戦略1	事業化 戦略2	販路開拓 戦略4	海外展開 戦略6	
食品	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究機関や企業による研究開発 (52件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品等開発助成 (6件支援)</li> <li>新事業創造研究会 (4部会支援)</li> <li>コーディネーター支援 (1,551件)</li> <li>フードテック協業支援 (4件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示会出展支援 (商談のベ362件)</li> <li>参画市商談会 (商談のベ273件)</li> <li>国内テストマーケティング (23社29商品)</li> <li>地域ブランディング</li> <li>販路開拓アドバイザー支援 (802件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン カタログによる海外販路開拓 (4カ国で展開)</li> <li>海外向け商品の販路拡大支援 (2社)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合食品学講座 (25名)</li> <li>企業誘致の促進 (10社)</li> <li>FHCoIフォーラム (3月予定)</li> </ul>
化粧品	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究機関や企業による研究開発 (6件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化粧品開発助成 (5件支援)</li> <li>コーディネーター支援 (532件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示会出展支援 (商談のベ86件)</li> <li>コスメマルシェ (4社)</li> <li>販路開拓アドバイザー支援 (5件)</li> <li>OEM受注生産機会の拡大支援 (36件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドネシア薬科大学との情報交換・企業訪問・ビジネスマッチング (2社)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コスメティックフォーラム (67名)</li> <li>化粧品スキルアップセミナー (2月予定)</li> </ul>
ヘルスケア 戦略3	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究機関や企業による研究開発 (6件)</li> <li>リビングラボ (モニター約280人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスケアビジネス事業化助成 (可能性調査4件、実証2件支援)</li> <li>コーディネーター支援 (522件)</li> <li>ヘルスケアビジネス開発WS (9社)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示会出展支援 (商談のベ39件)</li> <li>国内テストマーケティング (再掲)</li> <li>販路開拓アドバイザー支援 (1件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外向け商品の販路拡大支援 (再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康イノベーション教育プログラム (38名)</li> <li>ウェルビーイングセミナー (60名)</li> </ul>

## ○【進捗状況】食品分野



新事業創造研究会の成果品  
戸田タチバナのペーストを活用したフィナンシェ

### 【概要】

- 本プロジェクトとAOI、MaOI等の先端産業創出プロジェクト、大学や公設試との連携が進んでいる。
- 機能性食品開発プラットフォームが有効に機能し、県内企業の届出件数は全国トップクラス
- 首都圏での展示会出展、テスト販売、商品のブラッシュアップなど、新たな販路拡大に向けた取組を支援
- R5は、フードテックを活用した静岡発「未来の食」の開発に向けた、県内外企業の協業を支援

## 機能性食品開発プラットフォーム

機能性表示食品の開発を、相談から科学的根拠の証明、消費者庁への届出まで一貫支援する体制を全国に先駆けて整備



- 静岡県内企業による届出件数 329件【全国4位】
- プラットフォームによる支援件数 55社103品目
- 製造品目数 2,237件 (全体の37.2%)【全国第1位】



Wの効果! ゼンライスプラス



真あじ塩焼き

## 今年度の新たな取組やトピック

- **フードテック・ヘルステックビジネス創出支援**
  - ・2つのテーマによる県内の食品関連事業者と、県内外のソリューションを有する企業との協業支援
    - ① サステナブルな仕組・製品づくり
    - ② 災害時にも活用できる健康食の開発
  - ・メディアによる取組の情報発信
- **ドラッグストアでのプロジェクト成果品の販路拡大支援**
  - ・(株)杏林堂薬局と連携し、本プロジェクト成果品の販路拡大のため、一部店舗における成果品の販売促進・県民へのプロジェクトの周知啓発
- **ムードフードを意識した機能性おやつの開発支援**
  - ・「おいしく」、「楽しく」をテーマに食事の合間に食べることのできる機能性おやつを試作(新事業創造研究会)



日経SDGsフェスでの県フードテック事業の情報発信



(株)杏林堂薬局とのプロジェクト成果品の選定商談

# ○【進捗状況】化粧品分野

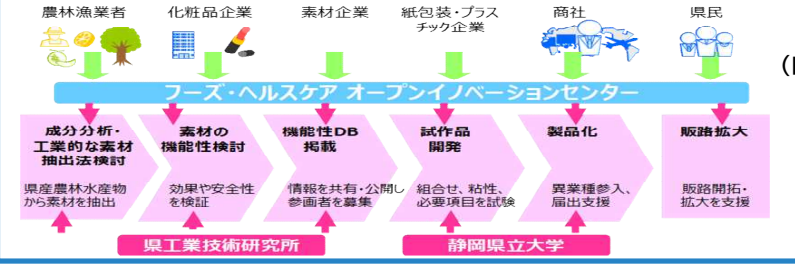


首都圏展示会での情報発信

- 【概要】**
- H30～R3まで、地方創生推進交付金を活用し、化粧品開発プラットフォームによる研究開発から販路開拓までを一気通貫で支援
  - 県産農林畜水産物を活用した化粧品素材や製品等が多数誕生
  - R4以降、販売金額の増加に向け、これまでの取組成果や県内企業の技術力を発信し、OEM・ODM受注生産機会の拡大を支援

## 化粧品開発プラットフォームによる開発支援

県産農林畜水産物を活用した素材開発を進めるとともに、素材に関する科学的なエビデンスの構築等を行い、県内企業の事業化を支援



静岡の香り 駿河 (M'S AROMA BAR)



アスタボニタ (稲取赤尾ホテル)

## 今年度の新たな取組やトピック

- **海外大学研究機関と県内化粧品企業のマッチング支援**  
・自然原料を用いた製品の研究開発を行うインドネシア薬科大学所属の研究者が、県内化粧品企業2社を訪問し、共同研究等に係るディスカッションを実施
- **企業交流フォーラムの開催**  
・コロナ禍を経た最新の化粧品産業の動向をテーマに講演及び企業展示・企業交流を開催



フォーラムの開催状況

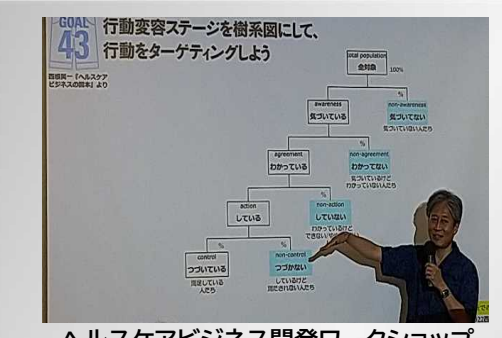


企業展示・企業交流の状況



インドネシア薬科大学所属研究者による県内化粧品企業訪問 6

# ○【進捗状況】ヘルスケア分野



ヘルスケアビジネス開発ワークショップ

- 【概要】**
- R2より、本プロジェクトの新たな柱として、ヘルスケアの取組を開始
  - 支援体制の整備として、県立大学が、静岡市地域福祉共生センター「みなくる」を活動拠点とし、リビングラボ(実証フィールド)を整備
  - ヘルスケアサービスに求められるエビデンス取得のため、学術機関(静岡県立大学、静岡社会健康医学大学院大学等)との連携体制の構築を推進
  - R5は、ヘルスケア分野への参入を検討する企業の事業計画の作成を支援

## ヘルスケアビジネス開発支援

ビジネス領域	支援項目	内容
企業	コーディネーター(CD)	・研究機関と事業者とのマッチング促進 ・研究及び開発状況等の進捗管理
	助成金	・事業化に向けた実証実験等の経費を助成
リビングラボ(ビジネス)(R4～財団)	・サービス開発の意見を聞きたい・調査や実証を行いたいなど	・ワークショップや実証事業等を行うためのフィールドの提供 ・県大は、全フィールドに対し、学術的知見の提供
参加企業	相談 [相談窓口(財団)]	財団CDが各種相談に対応

・コーディネーター配置や助成金、実証フィールド(リビングラボ)の整備、静岡社会健康医学大学院大学との連携等により、ヘルスケアビジネスのエビデンス取得や事業化を支援

・実証フィールド「みなくる」に集まる地域住民にウェアラブル端末を貸出し、健康の見える化(活動量、心拍数、睡眠時間等)や、商品等のモニターを実施



「みなくる」モニター:約280名

## 今年度の新たな取組やトピック

- **ヘルスケアビジネス開発ワークショップ**  
・ヘルスケア分野への参入を検討する企業等の事業計画の作成を支援(対面講座5回+オンラインフォローアップ2回)
- **静岡社会健康医学大学院大学と企業等との連携**  
・(株)ウェルビーフードシステムが提供する脱塩機での調整減塩調味料を活用した介護食(減塩食)の身体への影響に関する共同研究に向けての静岡社会健康医学大学院大学と連携
- **ウェルビーイング産業創出セミナー・交流会の開催**  
・オープンイノベーションによる次世代ウェルビーイングの産業創出をテーマとした企業向けセミナー、交流会を開催



(株)ウェルビーフードシステム脱塩機



ウェルビーイング産業創出セミナー 7

# ○先端産業創出プロジェクトや研究機関との連携

## 連携のプラットフォームの構築・運用

### ○ プロジェクト連携会議の開催（県産業政策課）

- 各プロジェクトの事業コーディネータ間での交流によって連携促進 R5:計4回



しずおか産業創造プラットフォーム



プロジェクト間の連携

## 海外研究機関との連携による海外展開支援

### ○ シンガポール テマセク工科大等との連携

(県農業戦略課 AOIプロジェクト関連)

- 農業・食品関連生産分野における共同研究開発や事業化支援に関する覚書を締結
- R5.11.9 第4回静岡・シンガポールアグリ・フードフォーラムを本県にて初の現地開催(プラサヴェルデ、213名参加)



フォーラムの開催状況

## 産学官連携による研究開発・事業化

### ○ 海洋由来微生物を活用した新たな食品開発

×MaOI-PARC×県公設試5機関

- BISHOP(海洋微生物ライブラリー等)の整備・運営
- 海洋由来の有用微生物を活用した県内企業の製品開発を促進



ヨーグルト、調味料などが商品化

### ○ 生鮮食品の機能性表示食品開発

×AOI-PARC×農林技術研究所  
×静岡県立大学

- 各機関のCDが連携することで、一貫した届出支援の体制を実現
- 本県事業者の生鮮食品の届出件数:26件【全国2位】



R5機能性表示食品(生鮮)届出製品

### ○ ヘルスケアの研究開発と可能性調査

×フotonバレーセンター  
×ICOIプロジェクト

- 光/電子技術活用の支援スキームA-SAPを活用した試作・開発
- FHCaOI補助金を活用したビジネス化の可能性調査



バスリ工機のサウナに関する事業開発

# ○販路開拓支援

## 自治体によるブランディング

### ○ 頂(しずおか食セレクション) (県マーケティング課)

- 県産食材のブランド力向上を図るため、コンビニエンスストアや県内惣菜店と連携して「頂」を活用した商品開発を実施



「頂」マーク



セブン-イレブンでの商品開発

### ○ 「静岡おみやプロジェクト」 (静岡市)

- 地域資源を活用し、マーケティング手法を取り入れた商品開発により事業者をサポート(R5採択:6件)



ネギトロポー(株式会社エンルーフ)

### ○ 「藤枝セレクション」 (藤枝市)

- 地場産品の中から藤枝を代表する商品を認定し、藤枝の名を全国に発信する取組(R5認定:3件)



「藤枝セレクション」マーク



莓一會(株式会社ジャポニハリー)

## ニーズに対応した商談会

### ○ 「バイ・シズオカ オンラインカタログ」の活用

(県マーケティング課)

- 国内外のバイヤーと県内生産者を結びつけるツールとしてオンライン上に整備
- 量販店や卸売業者等との商談会を開催。あわせて、商談成立商品のテスト販売の機会として量販店でフェアを開催



カタログ公開900品超 (R6.1月時点)



オギノ(山梨県)でのフェア開催

### ○ 外食事業者による「焼津フェア」(焼津市)

- 首都圏の外食事業者を招いて、市内7事業者への視察を実施
- その商材を使用したメニュー開発及び首都圏飲食店でのフェア(1か月間)を実施



外食事業者の視察



飲食店での焼津フェア

# ○ 人材育成、クラスター形成、食文化の発信

## 県立大学等との連携による実践教育

### ○ 総合食品学講座 (フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター)

- ・機能性食品等の開発人材を育成
- ・新商品の開発を意識したグループワーク・成果発表会を導入 (R4～)
- ・全14日間26講座  
 <R5実績>  
 全部受講:25名  
 個別受講:55名



グループワーク



試作品の開発

### ○ 健康イノベーション教育プログラム(県立大学)

- ・ITとデータの科学などのデータサイエンスの実践スキルの獲得による「健康と食」に関する新たなヘルスケアサービスを創出する人材を育成
- ・「ITとデータの科学」、「健康と食」等の6講座
- ・延べ53名受講 (R5.12月末時点)



教育プログラムの開催

## 企業誘致の促進

### ○ 新規・地域産業立地事業費補助金

(県企業立地推進課)

- ・県と市町が連携して本県の立地環境や支援策をPRし、企業立地を推進
- ・食品関連産業9社が用地の取得・工場の新增設

### ○ クラスタ分野支援貸付(県商工金融課)

- ・プロジェクトを推進する地域企業の事業に必要な設備資金、運転資金の利子を補給
- <32件 42億7,700万円(R5.11月末時点)>

## 食文化やSDGsの取組の発信

### ○ R5.11.1-2 食と温泉文化フォーラム

(県観光政策課、県新産業集積課)

- ・東アジア文化都市事業の一環として、観光面で密接に関係する「食文化」と「温泉文化」を発信



食と温泉文化フォーラム

### ○ ふじのくにSDGs認証制度

(県マーケティング課、県食と農の振興課)

- ・県内食関連産業の付加価値向上や、県内のSDGsの意識醸成を目指した認証制度 (R5～)
- <第1回認証:生産者20名、飲食店10店舗 (R5.12月末時点)>



SDGs認証マーク

## プロジェクト全体における成果指標・活動指標の状況

成果指標		目標値	現状値	
静岡県の健康寿命		全国第1位	男女ともに全国5位 (R元実績:男性73.45歳、女性76.58歳)R3.12.20発表	
食料品等の付加価値労働生産性		全国第1位	全国第3位 (R3実績:14.968百万円/人)R5.6.27発表	
活動指標	目標値	現状値(R5.12月末)		評価
産学官金連携による研究件数	90件/年	64件	県工業技術研究所とMaOI機構による共同研究等	△ 未定
事業化件数	54件/年 (R4に40件/年から上方修正)	33件	機能性表示食品「日東紅茶 Style」、「たっぶり掛川茶」等	△ 未定
うち、ヘルスケア	5件/年	8件	AI健康管理アプリとリアル管理栄養士を活用したセルフケア支援サービス、自身体力検定システムを活用した健康増進支援サービス等	◎ 達成済
販売促進支援件数	400件/年 (R4に110件/年から上方修正)	235件	各種展示会への出展支援等	△ 未定
産学官金連携による人材育成数	100人/年	63人	総合食品学講座、健康イノベーション教育プログラム受講者数	△ 未定

# プロジェクト成果品の売上等の状況

## プロジェクト関連助成実績

- ・R4製品化件数:16件
- ・R4売上金額:3億 9,500万円(R1~R3成果品)  
※ うち3億円930万円が機能性表示食品
- ・直近5年間売上金額計:58億 5,800万円

## 商談会実績

- ・R4出展支援:9展示会61社
- ・R4商談件数:2,197件
- ・R4成約金額:4,260万円

## 令和5年度に事業化した主なプロジェクト成果品

### ○サラダ小松菜NEO

(株)森島農園

【機能性表示食品開発PF】

- ・コントラスト感度(目のぼやけ、かすみ)を改善するルテイン含有の機能性表示食品
- ・ウェルネスアワード2023 認知睡眠部門 銅賞受賞



### ○晴レノ日ノ醤油

(株)ハチマル

【R3新事業創造研究会】

- ・令和3年5月の竜巻被災で奇跡的に発見された45年前の酵母から生まれた特別な醤油
- ・伝統的な木桶天然醸造で丹念に醸造



### ○from banana

(株)white from green

【R4 ぬすかびじ 初事業化促進助成】

- ・規格外バナナを活用したレジスタントスターチ(難消化性でんぷん)を含む健康増進食品
- ・R5 第9回ジャパン・ビューティアワード審査員賞受賞



### ○配食サービス

(株)天神屋

【R4 ぬすかびじ 初事業化促進助成】

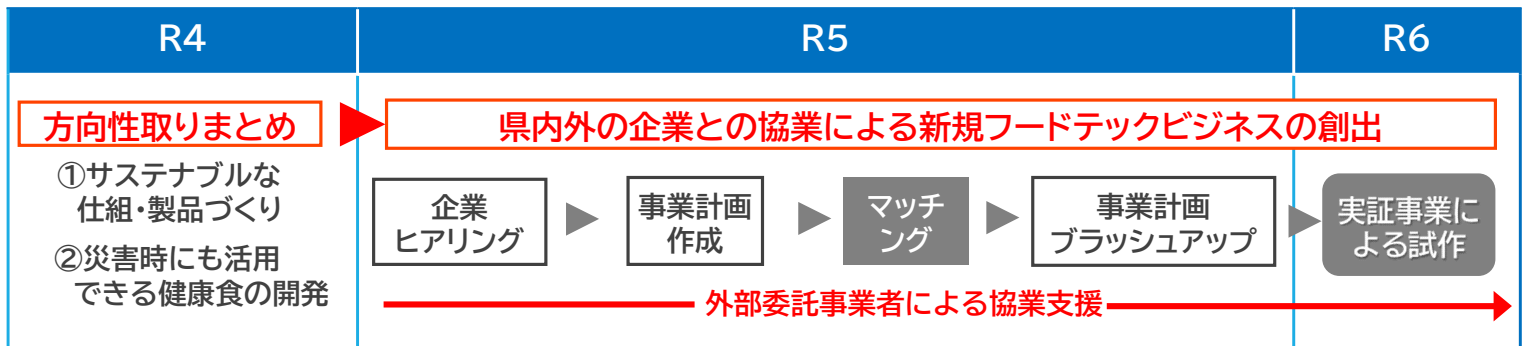
- ・在宅介護生活者への配食サービスや、管理栄養士による栄養管理を通じた、フレイル予防、要介護度の維持・改善のためのトータルケアサービス



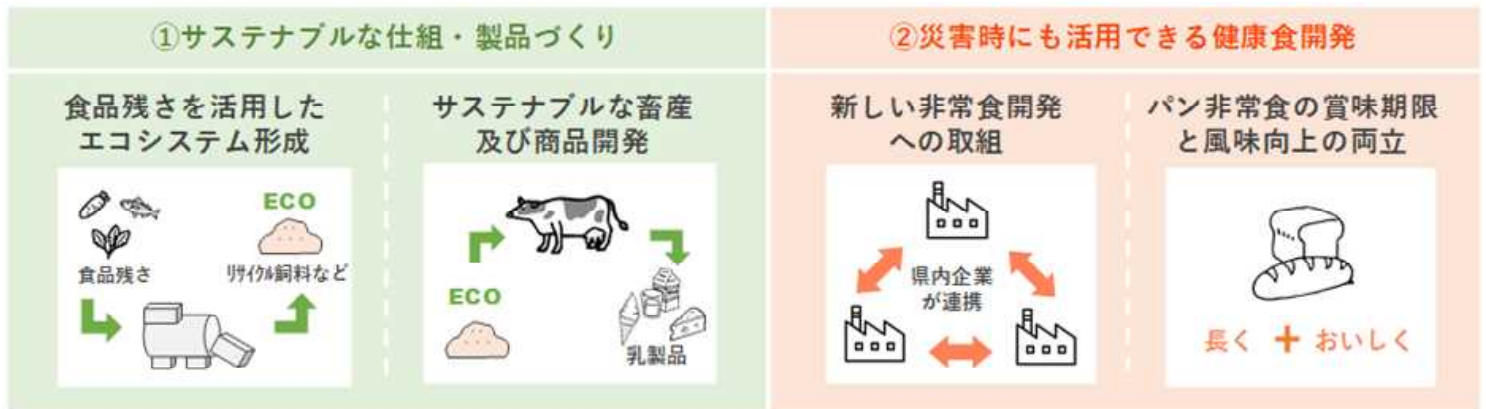
## 来年度の取組

# ○フードテック活用の推進① <R5事業実績・R6事業予定>

## <事業展開>



## <今年度支援する事業アイデア>



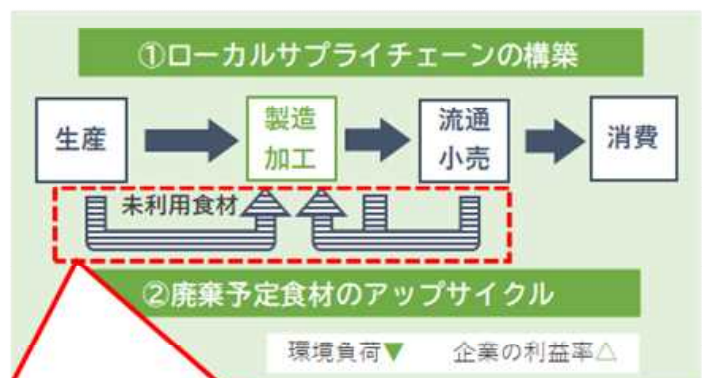
14

# ○フードテック活用の推進② <R6事業予定>

## 【仕組づくりに向けた課題】

- ・活用の可能性がある素材が県内にどの程度あるか分からない
- ・食品廃棄の情報を一元的に入手する手段が無い
- ・企業が個別に情報把握するのは非効率

## サステナブルな仕組・製品づくり



**【R6事業予定】**  
サステナブルな仕組・製品づくりに向けた基盤整備



フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター

15



# ○ヘルスケア① <R6事業予定:異業種交流の推進>

現状・課題

- ・新たなヘルスケアビジネスの創出のためには、異業種による「共創」が不可欠。
- ・現状、異業種交流の機会がないため、異なる視点からのニーズや課題の把握を通じた、マッチングや新たなアイデア出しの支援が必要。

対応

## 異業種交流(異業種交流会・アイデアソン)の開催

### ○ 目的

・異業種交流の場を提供することで、共創によるオープンイノベーションを通じた新たなビジネスプランを創出

### ○ 内容

- ・食、運動、介護予防、美容、観光等の異業種による情報共有・意見交換(課題・ニーズ把握)、マッチングの推進
- ・グループワークでの異業種の様々な視点によるアイデア出し

プロセス	普及啓発	オープンイノベーション創出	事業計画作成	事業化	販路拡大
目的	・ヘルスケアビジネスの理解向上による参入企業の増加促進	・異業種間連携によるマッチング、新アイデアの創出	・事業計画の作成支援による事業化可能性の向上	・マーケットインに基づく商品・サービスの開発 ・エビデンスの取得 ・優れたビジネスプランの掘り起こし	・事業化した商品、サービスの販路開拓・拡大
R5事業	・フォーラム ・セミナー	食、運動、介護、美容、観光などの異業種の交流	・ヘルスケアビジネス開発ワークショップ	・リビングラボ ・コーディネーターによる支援 ・ヘルスケアビジネス事業化助成	・展示会出展
R6事業	・セミナー	・異業種交流会 ・アイデアソン	・ヘルスケアビジネス開発ワークショップ	・リビングラボ ・コーディネーターによる支援 ・ヘルスケアビジネス事業化助成	・展示会出展

新たなヘルスケアビジネス創出のための事業プロセス

# ○ヘルスケア② <R6事業予定:産学官連携の推進>

- ・エビデンスのあるヘルスケア商品の社会実装を支援するため、産学官連携の仕組づくりを推進
- ・具体的には、健康経営企業や市町の課題(ヘルスケアサービスのニーズ)と企業サービスをマッチングし、実証等を通じて社会実装を支援する。実証にあたっては、大学の支援を得て実施する。

現状

**○県内企業**

【課題】

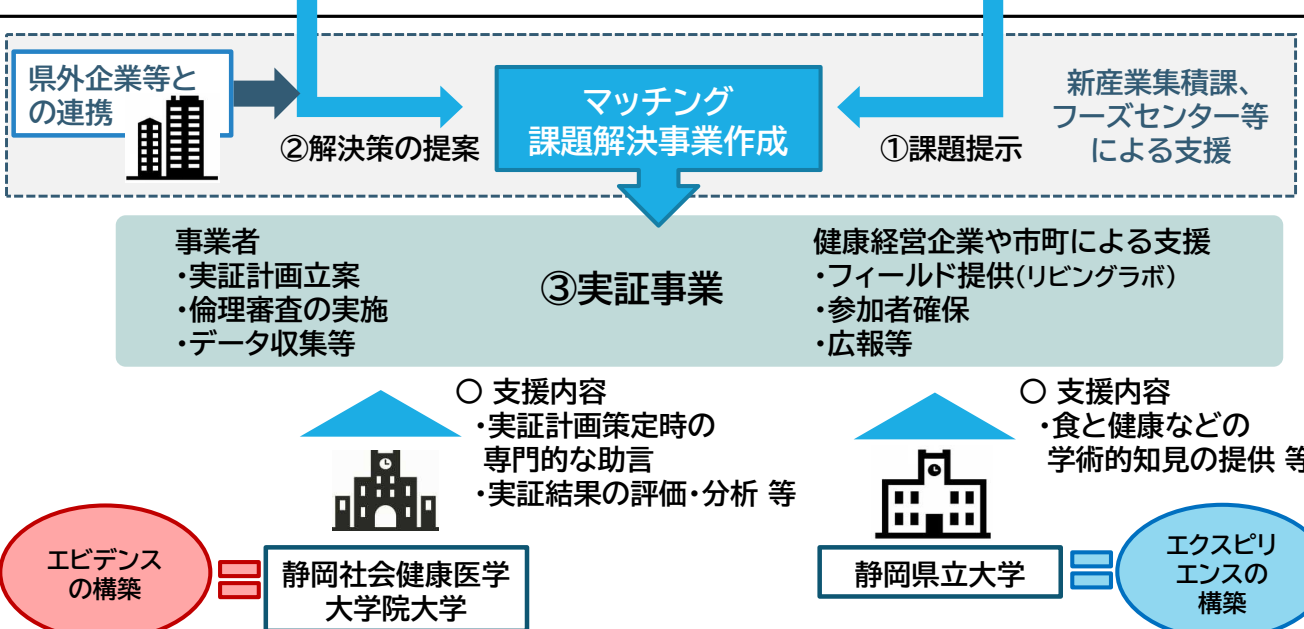
- ・製品やサービスのエビデンスを深め、社会実装したい
- ・現場のリアルな声(課題)を知りたい 等

**○健康経営企業・市町**

【解決したい課題等(例)】

- ・費用対効果の高いサービスを導入したい
- ・健診等の受診率を向上させたい
- ・健康的な食環境を整備したい 等

事業案



# 付属資料

## 戦略1 「きわめる」オープンイノベーションやデータ活用による研究開発の推進

<b>戦略計画 の内容 Plan</b>	<b>1 戦略の内容</b> 先端科学技術拠点等との連携やオープンイノベーションの「場」の創出、健康データなどの活用により、研究開発を推進します。	<b>2 主な取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先端産業創出プロジェクトとの連携</li> <li>○ 研究機関との連携強化</li> <li>○ 企業連携を促進するフォーラム</li> <li>○ 健康データなどを活用したデータ駆動型の研究開発</li> <li>○ 海外研究機関との連携</li> </ul>
<b>取組実績 Do</b>	<b>1 取組状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ AOI、MaOIプロジェクト等、先端産業創出プロジェクトとの連携による研究開発の推進</li> <li>○ 異業種から食品、化粧品、ヘルスケア産業分野への参入を目指す地域企業やベンチャー企業を支援</li> <li>○ 県立大学・県工業技術研究所等と連携した素材開発の推進</li> <li>○ FHCaOIフォーラム会員向けセミナー等の情報発信の実施</li> </ul> <hr/> <b>2 取組実績（R5.12月末時点）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 産学官の連携による研究件数：64件</li> <li>◇ 先端産業創出プロジェクト連携会議の開催（4回）</li> <li>◇ 県内企業の技術情報Webサイト「テクノロジー静岡」掲載件数：143社、うちFHCaOI関係37社</li> <li>◇ 県工業技術研究所で県産農林水産品を活用した化粧品素材開発を実施中</li> <li>◇ FHCaOIフォーラム会員：1,554（R4）→1,684（R5）<i>R4 +130</i></li> <li>◇ 会員向けフォーラム及びセミナーの開催（化粧品、ヘルスケア等計2回）</li> </ul>	
<b>進捗評価 Check</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 県産業政策課によって、先端産業創出プロジェクト間の交流のプラットフォームが運用されている。</li> <li>✓ 県工業技術研究所を中心に産学官連携による研究開発が進められているが、コロナ禍とともに減少した研究件数はまだ十分には回復していない。</li> </ul>	
<b>来年度以降 に向けて Action</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「しずおか産業創造プラットフォーム」や「テクノロジー静岡」を活用しながら、先端産業創出プロジェクトのコーディネーター間の連携を一層強化し、産学官の連携による研究を促進。</li> <li>□ 産学官の連携による研究から生まれた成果について、事業化に向けた製品開発・販路拡大を強化。</li> </ul>	

## 戦略2 「つくる」競争力のある高付加価値製品の開発

<b>戦略計画 の内容 Plan</b>	<b>1 戦略の内容</b> 機能性食品の開発や先端技術を活用した製品など、時代に即した競争力のある高付加価値製品の開発を目指します。	<b>2 主な取組</b> ○ 先端科学技術拠点における成果の活用 ○ 製品開発を支援するプラットフォームの充実 ○ 県産農林畜水産物や地場産業を活用した製品開発の促進 ○ あらゆる角度からの付加価値の向上 ○ 人手不足への対応
<b>取組実績 Do</b>	<b>1 取組状況</b> ○ コーディネーターによるAOI-PARC等との共同開発 ○ フードテックを活用した仕組み、商品づくりを推進するための県内外の企業の協業支援 <hr/> <b>2 取組実績 (R5.12月末時点)</b> ◇ 製品化数：33件 うち機能性表示食品11品目 ◇ 素材データベース掲載：届出素材10種123商品、研究中素材38種49件 ◇ 食品等開発助成（補助率1/2、限度額200万円）：6件、454万円 ◇ 化粧品等研究開発推進事業助成（補助率1/2、限度額500万円（単年）、750万円（2年））：5件、515万円 ◇ 新事業創造研究会：4グループ（10社）	
<b>進捗評価 Check</b>	✓ プラットフォームを活用した機能性表示食品が事業化されるなど、順調に地域企業の製品化が図られた。 ✓ 県内外の企業の協業支援により、「サステナブルな仕組・製品づくり」や、「災害時にも活用できる健康食の開発」といったテーマに沿った、フードテックを活用した新たな製品開発の推進が図られた。 ✓ 消費者の多様化するニーズに対応したマーケットイン、パーソナライズ等を踏まえた商品の開発など、あらゆる角度からの付加価値の向上が必要。	
<b>来年度以降 に向けて Action</b>	□ 県内産業の「製造・加工」のポテンシャルを活かした、静岡らしい高付加価値製品の開発支援を強化。 □ 県内食品関連企業と、新しいテクノロジーを持つ県内外企業との協業を促進。 □ サステナブルな仕組・製品づくりの基盤整備の一環として、以下の取組を実施。 ・主に加工～製造～流通段階において生じる未利用食材の実態調査 ・未利用食材の情報を集約し、出し手と受け手をマッチングするワンストップ窓口の設置 ・情報発信（支援制度を紹介するセミナーの開催等）	

20

## 戦略3 「いどむ」データヘルスの実践による健康機能の維持・増進

<b>戦略計画 の内容 Plan</b>	<b>1 戦略の内容</b> 新たに設置するリビングラボを活用し、健康状態に応じた健やかで美しい体づくりを目指したヘルスケアを実践するほか、食の基本であるおいしさを追求し、健康機能の維持・増進を図ります。	<b>2 主な取組</b> ○ データヘルスを活用したプラットフォームの構築 ○ あらゆる健康課題に対応した製品・サービスの開発 ○ おいしく、健康をもたらす製品 ○ ヘルスケア産業の創出 ○ 健康的な食の確立と普及 ○ 健診など予防対策の充実
<b>取組実績 Do</b>	<b>1 取組状況</b> ○ 通いの場を中心としたリビングラボでは、ウェアラブル端末による日常生活下での活動データや食事傾向データ等を活用した開発製品の実証フィールドとして活用 ○ ヘルスケアビジネス事業化促進助成やコーディネーターにより、ヘルスケアサービスの事業化を支援 ○ 企業間交流促進のため、セミナーの開催や企業の商品やサービス情報を収集 ○ ヘルスケアビジネス開発ワークショップを開催し、個々の事業者の事業計画の作成を支援 ○ 食育や栄養指導による健康づくり <hr/> <b>2 取組実績 (R5.12月末時点)</b> ◇ リビングラボにて、地域企業によるモニタリングやワークショップ等を実施（10件） ◇ 「リビングラボ友の会（ビジネス）」の会員：76会員（R4）→128会員（R5） <u>R4 + 52</u> ◇ 助成金において、事業化実証2件及び実施可能性調査4件を採択 ◇ ウェルビーイング産業創出セミナー（R5.11.29）の開催（60名参加） ◇ ヘルスケアビジネス開発ワークショップを実施（9社支援） ◇ 各機関において食育や食をテーマとした事業を実施し、健康づくりを支援	
<b>進捗評価 Check</b>	✓ 個々の事業者の事業計画の作成を支援することで、事業化の可能性を高め、ヘルスケア産業分野への参入を促進。 ✓ 新たなヘルスケアサービスの創出には、異業種交流等を通じたマッチングや、オープンイノベーションの創出が必要。 ✓ エビデンスの取得に当たっては、企業とアカデミアによる産学連携が必要。	
<b>来年度以降 に向けて Action</b>	□ 様々な異業種が交流できる場を設定し、ニーズやシーズの情報共有や意見交換等によるオープンイノベーションの創出を推進。 □ エビデンスのあるヘルスケア商品の社会実装を支援するため、産学連携の仕組みづくりを推進。	

21

## 戦略4 「とどける」 社会の環境変化を踏まえたマーケットインによる販路拡大とサービスの提供

<b>戦略計画の内容 Plan</b>	<b>1 戦略の内容</b> 多様なライフスタイルや超高齢社会をビジネスチャンスと捉え、市場が求める製品開発やサービス展開を積極的に支援し、新たな販路を拡大します。	<b>2 主な取組</b> ○ マーケットインの発想に基づく販路開拓 ○ 社会の環境変化を踏まえたサービスの提供
<b>取組実績 Do</b>	<b>1 取組状況</b> ○ 展示商談会への出展支援及び販路開拓・拡大アドバイザーによる支援 ○ 社会環境、消費者動向を踏まえた販路開拓事業やマッチング支援の実施 ○ 自治体による地域ブランディングや個別商談会の開催 <hr/> <b>2 取組実績 (R5.12月末時点)</b> ◇ 各種展示商談会への出展支援 (11回、延べ39社) ◇ 販路開拓・拡大アドバイザー商談成立件数 (48件) ◇ 東京駅1F構内にてテストマーケティングを実施 (23社29品目) ◇ 地域の魅力を伝えるブランディング (「頂」「静岡おみやプロジェクト」「藤枝セレクション」等) ◇ 「バイ・シズカ ワイカカガ」を活用した商談会の開催、量販店でのテストマーケティングの実施(県産フェア開催)	
<b>進捗評価 Check</b>	✓ 各種展示商談会への出展支援や販路開拓・拡大アドバイザーの支援により販路拡大を進めることができた。 ✓ 首都圏におけるマーケットニーズや商品に関する課題を把握できた。 ✓ ドラッグストアと連携した、プロジェクト成果品の販路拡大や、県民へのプロジェクト周知等を推進。 ✓ コロナ禍を通じた消費者動向 (健康志向・経済性志向・節約志向) や、流通面 (ドラッグストア、スーパー、ECの好調) の変化に対応した支援が必要。 ✓ 地域ブランディングの活動を通じて、地域の魅力を伝える商品開発を推進した。	
<b>来年度以降に向けて Action</b>	□ 展示商談会やアドバイザーによる販路開拓・拡大支援の継続、テストマーケティングを通じて得られた課題への対応支援など、マーケットニーズを踏まえた個別商品のブラッシュアップを図る。 □ 「頂 (しずおか食セレクション)」を活用した販路拡大等に加え、ドラッグストア等の量販店における消費者への食による健康生活の提案による販売促進を行う。	

22

## 戦略5 「そだてる」 産業人材等の育成と開発環境の充実によるクラスター形成

<b>戦略計画の内容 Plan</b>	<b>1 戦略の内容</b> 地域の競争力強化を目指して、産業人材の育成、開発環境の充実に努め、製品開発力の高い企業などが集積する食品関連クラスターを形成します。	<b>2 主な取組</b> ○ 大学等との連携による実践教育 ○ 企業誘致の促進
<b>取組実績 Do</b>	<b>1 取組状況</b> ○ 地域企業内で新規機能性食品等を開発する人材を養成 ○ 地域企業の中核人材を対象に、データサイエンスの実践スキルの獲得を支援 ○ 食品関連産業の積極的な企業誘致 (助成での優遇:用地 (20%→30%)、建物等 (7%→10%)) ○ プロジェクト関連事業の実施に必要な設備資金・運転資金を支援 (利子補給) <hr/> <b>2 取組実績 (R5.12月末時点)</b> ◇ 総合食品学講座 全部受講者: 25名 (定員24名) 個別受講者: 55名 ◇ 健康イノベーション教育プログラム (6講座) 受講者: 延べ53名 ◇ 新規・地域産業立地事業費補助金 採択: 食品関連産業 9社 ◇ クラスター分野支援貸付 (利子補給率1/2、0.67%まで) 32件 42億7,700万円	
<b>進捗評価 Check</b>	✓ 新商品開発に模擬的に取り組むグループワークや試作品の成果発表などのより実践的な人材育成講座が受講者から好評。 ✓ 食品関連産業9社が工場を新設又は増設し、業務開始予定であり、製造品出荷額の増に寄与。 ✓ 利子補給制度は、新たな高付加価値食品に挑戦する企業の支援につながっている。	
<b>来年度以降に向けて Action</b>	□ 受講者アンケートの分析による講座内容の見直しや、SDGsやDXなどの社会情勢の変化を取り入れた講座の実施により、高度な産業人材の育成を図る。 □ JETROやSIBAとも連携し、県内への投資を検討している外資系企業の誘致に取り組む。 □ 地域特性を生かした有望分野への重点投資 (フードテック等) や、マザー工場・拠点化工場等の立地支援強化により、高い成長を目指す企業の誘致を図る。	

23

# 戦略6 「ひろめる」「食の都」の内なる国際化と魅力ある静岡の食文化の発信

<b>戦略計画の内容 Plan</b>	<b>1 戦略の内容</b> 本県を訪れる誰もが、国籍、宗教を問わず、静岡の食と食文化を楽しむことができる環境を整備し、静岡の食の魅力を広く発信します。また、静岡の食を海外に向けて積極的に売り込み、輸出の拡大につなげるため、国際規格に対応した製品開発についても積極的に支援します。	<b>2 主な取組</b> ○ 「食の都」の内なる国際化の推進 ○ 魅力ある県産品の輸出拡大
<b>取組実績 Do</b>	<b>1 取組状況</b> ○ ハラル対応の店舗の把握とインターネットによる情報提供、ピクトグラムの導入促進 ○ アジアを中心とした海外で活躍する料理人に対して、県産食材や本県の食文化を発信 ○ 海外販路開拓（海外見本市出展、販売促進媒体作成等）に取り組む県内中小企業を支援（助成金等） ○ GAPやHACCPなど農林畜水産物の国際認証取得を支援 <hr/> <b>2 取組実績（R5.12月末時点）</b> ◇ 「ハラル・ポータル」による情報提供 掲載143店舗 ◇ ふじのくにSDGs 飲食店認証制度 生産者20名、飲食店10店舗 ◇ 戦略品目売上拡大事業 1社選定 ◇ オンライン・オフライン併用型県産品海外販路開拓支援事業 4社選定 ◇ 中小企業海外市場開拓支援事業（補助率1/2、限度額50万円） 採択実績9社 ◇ 国際水準GAP認証の取得推進のため、16人の国際水準GAP指導者を育成	
<b>進捗評価 Check</b>	✓ 海外に向けて県産食材の魅力や本県の食文化の発信ができています。 ✓ コロナ禍における海外渡航規制の緩和を受けて、海外の関係企業との交流が戻りつつある。 ✓ プロジェクトを推進する県内支援機関において、着実に事業展開が図られている。 ✓ 海外市場の開拓のためには、輸出先の規制に応じた認証等の取得が必要となる。	
<b>来年度以降 に向けて Action</b>	□ 引き続き、輸出戦略5品目を中心とした県産品について販路拡大を支援。 □ プロジェクトを推進する県内関係機関との協働により、輸出先の規制に対応した認証・商標取得を支援。	